第 64 回講演会＜2021 年 9 月 27 日開催＞

国連平和活動と国連でのキャリア形成

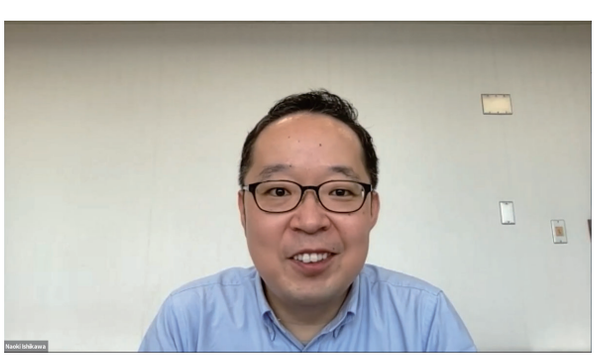
石川 直己（記録＝河越 真帆）

■講演者……石川 直己（国連南スーダン共和国ミッション（UNMISS）官房長室（戦略計画ユニット及び教訓ユニット長））
■司　会……河越 真帆（本学グローバル・リベラルアーツ学部准教授、グローバル・コミュニケーション研究所副所長）

第 64 回 GCI キャンパス・レクチャー・シリーズ講演会「国連平和活動と国連でのキャリア形成」は、本学のキャリア教育センターと共催でオンライン形式で開催されました。講師には、国連南スーダン共和国ミッション（UNMISS）官房長室勤務の石川直己氏を迎え、GCI 副所長・グローバル・リベラルアーツ学部の河越真帆准教授の司会進行で進められました。

講演概要

前半は、石川氏より、1）国連平和維持活動の役割とは何か、そして、2）国際社会、国連においてキャリア形成を目指すには何が必要かという、2 つのテーマでお話を伺いました。



石川 直己 氏

国連平和維持活動の役割

● 冒頭、石川氏は、南スーダンの地理、歴史に触れつつ、同国の現状と課題について説明。南スーダンを語る際に、世界で最も新しい国、人間開発指数が 188 国中 185 位、内戦や難民、人権侵害、貧困などの表現が使用されるが、平和維持の観点からは「人々はいかなる脅威にさらされているのか」という問いかけが重要。武力紛争、難民などの人道危機、食糧危機などに加え、気候変動、人権侵害、とりわけ性犯罪、加えて言論の自由の弾圧なども脅威として考える必要あり。

● 南スーダンの紛争要因は、単純な民族紛争ではなく、放牧地をめぐる部族間対立や、政治的エリートによる武力を使用した権力闘争、脆弱な行政、治安組織、不透明な公共財政などが複雑に絡み合った紛争。国連としては、様々な課題が複雑に絡み合う中で、どこから支援の糸口、安定化の芽を生めるかということを絶えず考えている。

● 石川氏は、参加者に対して、「どのような時に平和を感じるか」と問いかけ、「渋谷のスクランブル交差点を見ている時」という本人の例に触れながら、平和構築に対する考え方を共有。スクランブル交差点を見ていると、身の危険を感じないで渡ることができ、何百人という人の人生がそこにあり、安全が保たれ

ている。これは、道路交通法や信号があり、信号を守る人がいる、事故が起きた場合は警察が来る、さらに、これが犯罪行為と認められた場合は裁判所があるといった、一人ひとりを守るセーフティーネットができているから実現している。平和構築とは、社会に内在する様々な対立を、平和的に解決する必要最低限の制度を作っていくことと考える。

● 国連平和維持活動（PKO）は、加盟国から提供された軍や警察部隊に加え、文民組織が協力して、派遣国での武力紛争の停止や紛争解決を促し、平和構築を支援することが目的。冷戦期に生まれた軍部隊を中心とする停戦監視などを中心とする伝統的 PKO から、様々な平和構築活動に軍、警察、文民部門が統合して活動する多機能型 PKO が各地で展開されている。PKO の行動原則は、紛争当事者の同意、公平性、任務達成及び自衛のための武力行使。公平性は impartial であり、中立 neutral とは異なり、人権擁護などの一定の原則に基づいて、分け隔てなく必要があれば行動を取るということ。

● UNMISS のマンデート（任務）は、第一が文民の保護、第二が人道支援実施に資する環境作り、第三が和平合意の履行支援、最後が国際人権法違反及び人権保護に関する監視調査及び報告。具体的には、10 万人を超える避難民を UNMISS 基地に隣接する保護区を設置して保護したり、パトロールを行うなどの直接的な文民の保護活動の他、部族間紛争の調停、解決、和解を目指す対話の支援なども行っている。また、和平合意の履行支援は最も重要な任務であり、第三者として、話し合いの場を作ったり、国際社会と連携して合意の順守を勧めるなど調停活動を行っている。

国連においてキャリア形成

● 石川氏は、UNMISS の組織図等も示しながら、国連におけるキャリア形成の多様性について説明。UNMISS は最大の国連 PKO の 1 つで、年間予算約 12 億ドル（1, 250 億円）。その内、日本の拠出金は約 100 億円（8.564%）に上る。要員数は合わせて 19,000 名ほど。軍、警察要員が約 16,000 名を占め、他は任務の実施を担う政務、民生、人権などの部署（サブ）とロジ部門の文民要員が勤務。概ね 120 カ国・地域からの要員で構成されており、2017 年までは自衛隊の施設部隊も参加していた。現在日本人は、自衛隊から派遣された 4 名の司令部要員と、石川氏を含む 3 名文民要員が勤務。（注：データは講演開催時のもの。）

●（石川氏がチームリーダーを務める）Strategic Planning Unit は官房長（Chief of Staff）の下の組織で、経営企画、総務部的な役割を担う。主な業務は、ミッション全体が円滑に運営されるように、幹部に対して戦略的な助言やサポート行い、ミッションの責任者である事務総長特別代表が作った戦略を、各部署のサポートをしつつ計画的に実施していくこと。また、予算策定、評価、モニタリング、リスクマネージメントも所掌範囲。石川氏は、その他の部署についても、様々な業務や専門分野があることを紹介した。

● 国連では、多様な専門性、言語、出身を持つ職員が働いており、全員が同じ方向を向いて仕事ができるようにすることは非常に重要な仕事。これは、相手を尊重することからしか始まらない。そこからスタートし、相互理解を深めていく過程。（予算関連の会議の写真を

示しつつ）テーブルに座っている人の国籍は、ほぼ全員違う。多様性こそが国連で働く 1 つの醍醐味。

●（石川氏、ご自身の経歴を振り返りつつ）大学 4 年次に交換留学に出て、同時多発テロの時期を米国で迎えた。帰国後、就職活動も行ったが、大学院に進学。博士課程に進学したが、やはり実務に就きたく、専門調査員に応募。ニューヨークの日本政府国連代表部を経て、JPO として国連 PKO 局に勤務開始。2016 年より、現職の南スーダンに異動。昨年、2 人目の子供が生まれたことを契機に、9 か月間の育児休職中。このような経歴を見ると、常に国連職員を目指してきたキャリアのように見えるが、実際は常に進路に悩んできた。

● 国連においては、自分と同じような経歴の人は、殆どいない。それほど、国連のキャリアパスは多様。UNMISS の組織図で見たように、非常に多様な職種があり、国際要員は 1,000 人以上いるが、その中で自分と同じ職種は 3 人しかいない。その観点から、まずは、組織名から入らず、自分の役割を見つけることが大事。例えば、「私はこの会社に入りたい」と希望する学生がいたとして、採用する側は、この人はどのような役割を果たせるかということを見ている。その際に重要となるのが、どのような経験、専門性を持っているかということ。そして、応用可能な技能、組織が変わっても通用する技能を身に付けることも重要。自分の仕事で言うと、いろいろな人と話ができる能力、コンセンサスを作る能力が重視される。自分では、このような考えを学生時代には、なかなか出来なかったが、今は実感として分かる。

司会の河越真帆先生

● どのような経験をすると国連に入るときに有利ですかと質問を受けることがあるが、答えはない。日本社会の中で国際社会でも通用する経験を積むことは難しい部分もあるが、意識的に組織や社会においてどのような役割を果たしたいかを考え、自分の特長を伸ばし、弱点を埋め合わせしていく努力を続けることを勧める。

質疑応答

後半の質疑応答では、石川氏に学生時代の経験も踏まえて、研究者になるか実務家になるか迷った進路、国連で必要とされる語学力、ＮＧＯでの経験、現場での危険と安全管理、紛争地の勤務の様子、国連における意見調整の重要性、ジェンダーへの取組みなどについて、詳しくお話し頂きました。そして、神田外語大学で力を入れている在外公館派遣員から国連職員になった例も踏まえ、国連キャリアの多様性を改めて強調されました。最後に、キャリア形成は生涯悩み続けるもので、後に反省はしても後悔しない決断を積み重ねて行きたいと、締めくくられました。

本講演で示された見解は、講演者個人のものであり、必ずしも国連の見解を示すものではありません。